

手引書の実効性検証

青年の家 浜松市消防局

浜名湖で救助訓練

記 西野 友章

浜松市北区三ヶ日町の浜名湖で2010年6月、宿泊研修施設「県立三ヶ日青年の家」の手こぎボートが転覆し、私の娘西野花菜(当時12)が亡くなった事故を受け、同施設は12日に市消防局などと初めて実施した合同訓練で、見直し中の安全対策マニュアルの実効性を検証しました。

「出航について 意見はありますか」「万一転覆したら、落ち着かせ、つかめるものにつかまって」。荒天の湖へ出航して転覆した事故を教訓にした改善策の一つは、出航直前の協議。施設側と利用者側があらためて出航の是非を話し合い、転覆時の対応を確認することにしました。

訓練ではこのほか、ボート訓練で常に監視艇を伴走させたり、乗船者全員に確認用の腕輪を付けさせたりするなど、新たな試みも実践。県教委は運輸安全委員会が年内にも公表するとみられる事故調査報告書を参考に手引書を仕上げ、ボートなど湖上活動の再開に向けた具体的な検討に入る方針です。

【2011年10月13日 中日(静岡) 参照】



手こぎボート転覆想定

浜名湖で救助訓練

教訓、安全対策マニュアルに

記 西野 友章

手こぎボート転覆を想定した大規模な救助訓練が12日「県立青年の家」前の浜名湖で行われました。

昨年6月、同青年の家で研修中の愛知県豊橋市立章南中1年生の手こぎボートが転覆し、私の娘が死亡しました。訓練は事故の教訓を安全対策マニュアル作りに生かそうと、同青年の家や浜松市消防局、県マリーナ協会などが合同で開催。約100人が参加しました。

2隻のボートのうち1隻が横波を受けて転覆。20人が投げ出され、1人が行方不明になっているという想定。消防の救助艇や監視艇が出て救助活動を展開し、湖畔には「現地対策本部」も設置されました。体調管理、乗船名簿の確認など研修生側との「最終打ち合わせ」の模擬訓練も行われました。

県はこの日のシミュレーションを関係各社の連携がとれていたか、役割分担が効率的に行われたかなど多方面から検証し、今後の安全マニュアル作りに役立てたいとしています。

【2011年10月13日 毎日新聞参照】

